



(八 戸)

遠野市に移封になるまでの約二九〇年間、南部氏の居

り、本丸、中館、東善寺館、岡前館、沢里館の各郭からなる平城である。

根城は建武元年(一三三

四)南部師行が築城し、寛

永四年(一六二七)二二一代

直義の代に、現在の岩手県

遠野市に移封になるまでの

約二九〇年間、南部氏の居

青森・根城跡

1 所在地 青森県八戸市大字根城

2 調査期間 一九八五年(昭60)五月〜十二月

3 発掘機関 八戸市教育委員会

4 調査担当者 栗村知弘・小林和彦・佐々木浩一・高島芳弘・藤

田俊雄

5 遺跡の種類 城郭跡

6 遺跡の年代 南北朝時代〜江戸時代初頭

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

根城跡は東流する馬淵川に面した標高約二〇mの河岸段丘上にあ

城であった。

木簡が出土した本丸については、昭和五三年から六〇年まで、環境整備を目的に調査を行い、郭の平場の調査を行った。木簡は昭和六〇年度に調査した本丸南端の井戸跡(SE三九)埋土から出土した。井戸は検出面で直径が二・七m、深さは六・三m以上で、素掘りの井戸と考えられる。木簡とともに、陶磁器(青磁碗、白磁、染付皿、美濃・瀬戸産灰釉鉢、唐津焼皿、備前焼播鉢)、金属製品(煙管、手斧、鉄釘、永楽通宝など)、木製品(桤板、熨斗板、火鑽臼)、木の枝(サクラ属、アオギリ属など)、木の実(オニグルミ、ウメ、モモ、クリ)が出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) ×田面木と□×

(110)×20×1 081

「田面木」は大字名であり、根城の西方に現存している。『南部八戸家系図』や明和八年(一七七二)に書かれた『三翁昔語』によれば、田面木は元龜二年(一五七二)には南部氏の領地になった。

木簡の年代は、伴出遺物から一七世紀前半以降と考えられる。

なお、木簡の积読については、国立歴史民俗博物館平川南氏、八戸市文化財審議委員小井田幸哉氏の御教示を得た。

9 関係文献

八戸市教育委員会『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅹ』(一九八七年)

(佐々木浩一)